

5

さいごに——
“フェアな人であること”が仕事を制す

『金田一少年の事件簿』という作品を通して、コンテンツの拡がり方や IP 活用の可能性を幅広く紹介しましたが、いかがでしたか？ 私自身がこの作品を担当させていただく中で学んだことがあります。それは「フェアである」ということ。これは天樹先生がよく言っている言葉で、作品をつくるうえで

TSUCHIYA's Comment



「読み手に嘘をつかない、トリックをごまかさない」という意味なのですが、それを追求しているからこそ、30年も愛され続ける作品になったのだと思います。この「フェアであること」は、編集者としてもとても大切な心構えのひとつ。これからますます出版社の可能性は広がり、業務も多岐にわたっていくと思いますが、その中で自分を大きく見せずに嘘をつかないこと——つまり「フェアな社会人」であり続けると、仕事をしていく中で自分自身が救われることがあります。たとえ失敗しても、それを更なる力に変えることができるのが講談社の社風なので（笑）、みなさんには臆さずに何事にもチャレンジしてもらえたらと思います！

